

## 四谷の

# 千枚田たより



第 187 号

### 回想

現在の「ふれあい広場」は昭和三十九年、愛知県水産試験場内水面分場鳳来養魚場が開設され、平成六年まで冷水性魚類の試験研究が行われていた場所である。開設の経緯は昭和三十七年から県事業として中山間地帯営農振興対策の一環として山村養魚「ニジマスの養殖」の奨励を図り、昭和三十九年には養鱒業者は五十経営体まで急進展した。

水産試験場の役割としてニジマスの孵化稚魚を民間養殖業者に種苗として供給、または人工採卵や孵化技術の普及指導を行った。

そのころから観光ブームが到来、民宿や山里の旅館などで焼魚やフライとして料理に、また溪流釣りなども各地で人気を博した。

(舜)は昭和三十九年開設以来、同五十六年までの十七年間、冷水魚の試験研究に携わった。開設当時は県道も土道で輪道が三本(オート三輪)の(こぼ)道であり、眼下に見える千枚田入口付近を黒塗りの乗

用車が見え  
ると「県の偉  
いさま」が来  
たと、それか  
らお茶を沸  
かしても充分間に合った。

十七年間、見聞きしたことを脳裏から引き出してみると、鞍掛山の植林された幼木の間にワラビやゼンマイが生え、昼休みに採りに行ったが、今は木材の低迷で放置林化され湧水も当時は比べれば三分の一に減少している。また、夏目武さんや高橋直己さんは七十、八十以下の田んぼから索道で稲を運び上げ、大稲架にかけたりしていた。

四谷の千枚田を囲む大代、身平橋集落の有志は県の助成を受け「鞍掛山麓こどもむら」を開村、賑わいを見せたこともある。

徒歩で通勤途中に与良木の原田初男さんや大代の梶村譲吉さんが発破を仕掛け田んぼの畝町に精をだしており、昔の話をいろいろ聞かせてもらった。その初男さんから与良木も今年(四十年)から盆の跳ね込みは中止だと聞かされた。また、この時分棚田の田んぼは何枚あるかと興味を抱き、数えたところ千二百九十六枚であったが、数える度に

枚数が違ったのには往生した。四十年には長篠合戦のぼりまつりが始まり、長篠城主奥平貞昌は「タニシ」と「セリ」で飢えをしのいで城を守ったという伝説から東海自然歩道監視員を務めた身平橋の村雲恒夫さんが「タニシ」を奉納、現在は(舜)が引き継いでいる。四十六年、コメ余り対策の一環として減反施策が施行され、年二割の減反を五年間強いられ稲作転換、休耕地が否応なしに進んだ。今、知名度もそこそことなり、千枚田を訪れる人々が植林や梅林に転作、花木を奨励され、植えたものの採算が合わず放置化された場所を見て、「もったいない」とか勝手な造言を聞くが、やめるには止める事情があつてのことだと、棚田ネットワーク会報に寄稿したところ「棚田の番長」なるニックネームを頂いてしまった。同年、仏坂トンネル開通。今まで行き止まりの地であった連谷地区にトンネル開通により風穴が開き、閉鎖的根性が開かれたものと解釈したが、はてさて、東海自然歩道(鳳来く足助)開通この時、朝日新聞女性記者は「夕日」が最も美しい場所」と評価頂いたが、今は杉ヒノキが育ち見る影もない。なお、仏坂から鞍掛山のコースは当



初、尾根づたいの予定であつたが、立ち会った山主達は結構な高齢だつたことと、山火事を恐れ、楽な県道を選んだ経緯がある。四十七年、豊鉄バス大代線運行。四十九年、七夕豪雨、未曾有の大雨で時間雨量百ミリを越し千枚田が滝となる(三日で七百三十ミリ)。海老中町に信号機設置される。五十一年、大林く真菰河川改修完成。五十三年、町道真菰大林線竣工。五十四年、稲目トンネル開通。五十六年、連谷会館開設。六十年、豊鉄バス大代線廃止。六十二年、地区組別演芸大会開催。六十三年、車ナンバープレートが豊橋となる。そして、昭和は終わった。

## 卒業論文協力への礼文

ご無沙汰しております、名古屋大学の伊藤です。柵田についての卒業論文として認められ、無事に卒業が確定したことをご報告します。小山さんには忙しい時間の中で研究に協力してくださり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

インタビューだけでなく、論文に關してのアドバイスもありがたかったです。小山さんの協力なしには論文を完成させることは出来ませんでした。まことにありがとうございます。また、これからは県庁職員として関わることもあるかもしれませんが。その際はよろしくお願ひします。

卒業論文は要約版を後日遅らせていただきます。これからの四谷の千枚田の益々のご活躍を祈っております。

## 名古屋大学 文学部四年 伊藤悠介 アジエンダ21市民会議

三月十三日、新城市役所において表題の会議が開催され、保存会として参加した。

事例…黄柳野地区では過疎対策とした休耕田の解消に現在一、二畝の水田管理を行っているが、会員の高齢化を危惧しているようだ。

## 梅の花香る山里

川売の梅・千枚田の梅。方瀬の梅・副川の梅

昭和三十七年、海老駐在所の寺本忠男巡査が「この土地には梅が適している。私の在所・和歌山県日高郡南部川村は梅の産地であるから一度見に行ったら」と誘われ川売の夏目与一、横畑孝好、大林の古田友七、身平橋の村雲順一、方瀬の原田浩、丁塚の加藤久雄、副川の小林信一、坂神元さんたちが海老農協の坂神辰雄さんを案内役として鳳来タクシー二台で寺本巡査の在所に一泊、先進地視察を行った。

視察を終えた一行は白加賀、長東、小梅の苗五十本を各自で注文、翌年に植えたのがこの地の梅の栽培の始まりである。その後、旧海老町の農家も盛んに梅を植え、大儲けしたり、共同で梅加工場も経営した。

川売は梅の花が綺麗だということとでカメラマンや観光客が大勢訪れるようになった。(舜)は「川売の梅と猿岩」を東京都美術館に出版、現在もその作品は山びこの丘伝承

館に展示してある。また、「にほんの里100選」(朝日新聞主催)に四谷の千枚田と川売の梅の二箇所を応募したが、千枚田は落選、川売が100選に入った。朝日新聞に応募条件が「人の営みが作った豊かな自然と景観」く一年を通して絶え間なく人が来る場所とされており、千枚田は一年を通して人が来るが、川売は梅の花の時期だけだから無理を承知で一応コメントを書いて応募した結果、本命の四谷の千枚田が落選、川売の梅が「にほんの里100選」に選定された経緯がある。

和歌山県を紹介した寺本巡査と視察に行った当時の篤農家達が各集落へ奨励したからこそ、梅香る山里となったことには間違いはない。

## 今後の予定

・四月五日(金)、横浜ゴム新城工場  
新人・幹部社員研修(三十五名)

当日は七日に行われる奥三河パワートレイルに全国規模で参加する選手たちに心地よい大会会場場の設営、環境整備活動を研修の一環として計画。

なお、横浜ゴム新城工場の皆さん

は別グループを仕立て、「ふれあい広場」から「仏坂」までの沿道の整備、清掃活動に地域貢献の一環として協力を申し出ていただきました。

・四月七日(日)、パワートレイル四谷エイドステーションへの協力。

当日は、保存会が母体となり、参加選手、家族、スタッフ等、一千人規模の接待・応援を行います。地域の皆さんの協力で大会を成功させたいと思います。ご協力をよろしくお願ひいたします。



行 平成三十一年四月一日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
文 責 小山舜二